

事業実施の背景・課題、目標

【背景】 令和6年度に、団体としての方向性を明確化するため 中長期計画およびMVVを新たに策定。これにより、組織としてのビジョン、優先領域、今後の事業方針が整理された。令和7年度は、この計画に基づき 組織基盤強化・普及・アドボカシー・パートナーシップの重点領域における具体的な施策実行を本格的に開始した年である。また、外部環境としてスポーツ協賛市場の変化や自治体連携の広がりが進む中、パラサイクリングの社会的価値を可視化し、持続可能な団体運営への移行が求められている。



【課題】

1. 業務標準化・オペレーションモデルの確立不足	2. 自治体・教育機関・専門人材との連携基盤の未整備
3. アドボカシーにおけるメッセージの統一化・発信設計の不足	4. パートナーパッケージの競争力向上

【目的・目標】

目的： 令和6年度に策定した中長期計画およびMVVに基づき、パラサイクリングの価値を社会に広げるための組織基盤の実装を進め、持続可能な運営体制の確立を図る

目標：

- 中長期計画に沿った重点4領域（組織基盤／普及／アドボカシー／パートナーシップ）の施策を具体的に実行する
- 業務の標準化と体制整備を進め、属人性の低減と効率化を図る
- 自治体・学校・企業など外部連携の基盤を整備し、普及・発信活動の継続性を高める
- 既存・新規パートナー向け価値を再設計し、自立的な財源確保に向けた基盤を整える

本事業における具体的な取組内容

初年度となる令和6年度は、中長期計画策定及び中長期計画に沿った取り組みの実施し、基礎となる具体的な施策の検討を行ってきた。これらを基に令和7年度では中長期計画策定に際し、特に優先順位度が高い、4つの計画を推進した



令和7度の取組内容

実施期間

取り組み内容

① 組織体制・
オペレーションモデル
の見直し令和6年
～令和8年

- 組織運営の属人性を解消するため、主要業務の棚卸しと現状整理に着手し、**業務プロセスの可視化を進めてきた**
- 現在は、整理した内容をもとに**役割分担の明確化と、再現性のある運営を可能とする標準化・マニュアル化の検討**を進めている
- また、中長期計画に基づき、**組織運営に必要な機能の再設計**に取り組み、**持続可能なオペレーションモデルの構築に向けた基盤形成**を進めている



② パラサイクリング普及

令和7年
～令和8年

- 自治体・学校・民間施設など**既存の連携先を整理し、普及事業を継続的に展開するための枠組みづくり**に着手
- 体験会・講習会などの普及プログラムについては、**標準化に向けた検討**を開始し、新規競技者獲得に向けた**導線の明確化**を進めている
- さらに、専門学校等との連携に向けた協議を行うため、**指導者・運営人材の育成モデル構築に向けた準備**を進めている
- また、**eスポーツ領域を活用した新規アプローチ**についてもリサーチを行い、普及戦略の幅を広げている

③ 社会的アドボカシー
推進令和7年
～令和8年

- Mission / Vision / Valueを基軸とした社会発信の方向性を整理し、パラサイクリングが持つ社会的価値についてのキーメッセージ案を作成**してきた
- 現在は、そのメッセージに基づく**広報戦略の策定**を進めており、SNS・メディア連携・イベント発信等を活用した**効果的な情報発信手法の検討**を行っている
- また、**インクルーシブ社会の促進や多様性理解の向上に貢献するコンテンツ案の整理**も進めている

④ パートナーパッケージ
の見直し令和7年
～令和8年

- 既存パートナー企業との関係性強化に向け、**提供価値の棚卸しと既存パッケージ内容の整理**を実施
- その上で、新規パートナー獲得に向けた**ターゲット業界の精査と協賛メニューの改善案**を作成し、現在は**提案内容の具体化**を進めている
- また、**共創価値の可視化や支援効果の測定方法**についても検討を進め、**財源多様化と自立的運営に向けた基盤整備**を進めている

「パラサイクリング組織基盤強化事業」



計画③社会的アドボカシー推進

【進捗】

- MVV基軸の発信方向性整理
- メッセージ案の作成と検討
- 広報戦略素案の整理推進

【成果】

- 発信すべき価値領域の明確化
- SNS等の活用方針の方向性整理
- 社会発信基盤の初期整備

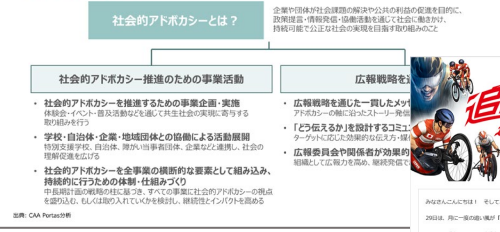
【課題】

- 発信テーマの優先順位整理
- メッセージ統一に向けた調整



社会的アドボカシーをJPCFの事業全体の軸として位置づけ、事業活動と広報発信の両面から共生社会の実現に向けた取り組みを一貫性をもって推進する

社会的アドボカシーの2つの側面



出典: CAJ Portals社

計画④パートナーパッケージの見直し

【進捗】

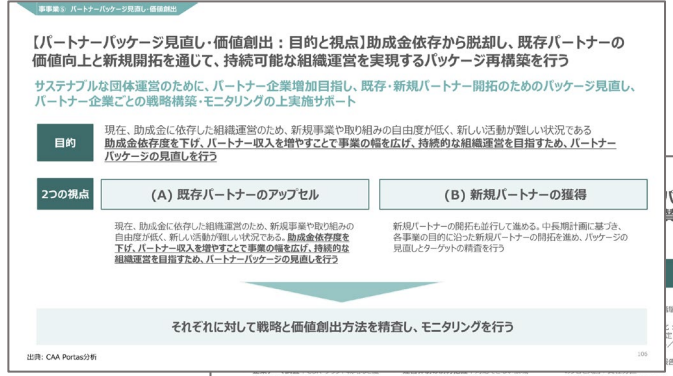
- 提供価値整理と現行案見直し
- 協賛メニュー改善案の作成
- 新規開拓に向けた検討開始

【成果】

- 価値訴求の軸と改善点整理
- 既存向け提案内容の精度向上
- 新規対象業界の方向性整理

【課題】

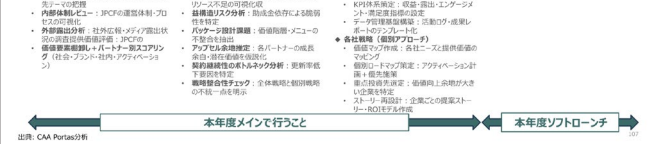
- 共創価値の可視化不足開拓に向けた体制整備課題



パートナーの価値と課題を
質モデルへの転換を図る

4. 実行

(注) 各戦略に沿って計画実行



4つの計画を通じて、中長期計画で掲げた重点領域を具体的な実装へ移すための基盤整備を進めるとともに、一部の取組は実働段階に入ったことで、関係者間の方向性や役割理解がより深まった。また、計画と現場のニーズの差異に対応しながら進めたことで、各事業が相互に補完し合う形で前進し、次年度に向けた実装の加速に必要な土台が整いつつある

本事業の成果目標・KPIの達成状況

実施した計画毎に、次の成果目標およびKPIを設定した

成果目標およびKPI

計画①



- 成果目標①：オペレーションモデル見直しによる人材体制の改善（KPI：体制変更の数／人数）
- 成果目標②：マニュアル化可能領域の特定（KPI：特定領域数と優先順位リスト）

計画②



- 成果目標③：自治体との事業連携の増加（KPI：昨年比+の実施状況）
- 成果目標④：地域における普及活動の数（KPI：実績）
- 成果目標⑤：専門人材獲得に向けた施策検討（KPI：企業・団体との対話実績）
- 成果目標⑥：eSports協力に向けた連携検討（KPI：協議実績）

計画③



- 成果目標⑦：社会的アドボカシーの推進（KPI：イベント等アンケート）
- 成果目標⑧：SNSエンゲージメント向上（KPI：昨年比+の実績）

計画④



- 成果目標⑨：パートナー数の増加（KPI：新規獲得数）
- 成果目標⑩：既存パートナーからの収益増（KPI：実績）

本事業の成果目標・KPIの達成状況（続き）

令和8年度の2026年1月時点のKPI達成状況

	KPI#	指標（要約）	ステータス	今年度実績（定量）	コメント（定性）
計画①	1	体制変更の数／人数	○	FT+1名、FL+4名 （Ops進捗80%）	体制強化と設計最終調整中
	2	マニュアル化領域特定	△	定量設定なし （特定は概ね完了）	優先領域特定、来期整備へ
計画②	3	自治体連携の増加	○	7自治体棚卸／重点2自治体選定	首長訪問3回・実務協議3回
	4	普及活動の数	○	13（自治体）+2（学校） +3（団体）+1（講習） =計19回／595名	新規5地域・リピート6地域
	5	専門人材施策の対話	○	企業協議12回／ 人的派遣18名・6回	連携枠組みの継続性を確保
	6	eSports連携の対話	○	企業3回／自治体1件／意向2件	方針転換で普及活用へ最適化
計画③	7	アドボカシー推進	○	イベント22／発信25／ インプレッション 93,000	理解向上82%・行動変容68%
	8	SNSエンゲージ向上	○	閲覧1,273,247（+50%）／ インプレッション 30,002（+19%）	マルチ媒体運用・動画強化
計画④	9	新規パートナー数	○	2件	提案精度向上・対象業界明確化
	10	既存収益の増	○	前年比+200万円	価値還元施策の効果を確認



令和8年度の実施予定

本年度のKPI到達を踏まえ、令和8年度は「標準化の実装」「重点自治体での地域実装」「統一広報の運用」「パッケージの本格展開」に軸足を移し、収益基盤の安定化と自立運営への移行を加速する

① 組織体制・オペレーションモデルの実装

- ・ 令和7年度の体制再設計に基づく新体制移行の実行
- ・ 属人化領域のマニュアル化・標準化の本格実施
- ・ 業務分担・役割定義の確立による持続的な運営体制の完成

② パラサイクル普及

- ・ 山陽小野田市・いわき市との連携深化と具体的事業計画の開始
- ・ eSportsを活用した普及～強化パスウェイの構築・導入
- ・ 専門学校・大学等との接点創出による専門人材育成の体系化

③ 社会的アドボカシー推進

- ・ 令和7年度に策定したアドボカシー方針を基盤に統一的発信を実施
- ・ すべてのイベント・普及活動で社会的価値のメッセージを明示
- ・ SDGs・地域社会連携を盛り込んだストーリー型広報への移行

④ パートナーパッケージの見直し

- ・ R7で再設計したパッケージの本格運用と段階別プラン導入
- ・ 新規パートナー開拓の強化（重点業界への体系的アプローチ）
- ・ 既存パートナー価値向上施策（アクティベーション等）の実施

令和8年度は、本事業で整備した組織体制・普及基盤・社会的アドボカシー・パートナーシップを実装・定着させる最終年度となる。

これまでに蓄積した知見をもとに、パラサイクリングの社会的価値を多面的に創出・発信し、

既存パートナーとの協働深化および新規パートナー獲得につなげることで、助成金に依存しない持続可能な運営体制への移行を実現する。

事業終了時には、地域・企業・関連団体と連携した自立的な活動モデルを確立し、組織として安定的に価値を生み出す仕組みの完成を目指す

【令和8年度の改善策】

1) 事業全体の方向性再整理が必要となった点への改善策

計画と実施のギャップを抑えるため、定期モニタリングと段階的ロードマップを導入し、年度内で柔軟に方向修正できる体制を整える

2) 自治体との連携進行速度の制約への改善策

自治体側の予算・稟議サイクルを踏まえ、前倒しで協議を開始。定例ミーティングと複数部署との連携により、進行遅延リスクを最小化する